

台湾(台北市)の小中学校を訪問しました

令和7年2月24日(月)から26日(水)に台湾(台北市)へフィールドワークに行ってきました。このフィールドワークの目的は、台湾の文化や日本統治時代の教育及び、現在の道德教育について調査することでした。

故宮博物院と「六士先生之墓」

初日は台北市にある故宮博物院と芝山巖公園内の「六士先生之墓」を巡りました。

故宮博物院は、中国の歴代王朝が収蔵してきた貴重な文物を展示する世界的に有名な博物館です。「肉形石」といった精巧な彫刻が印象的であり、歴史と美術の融合に感銘を受け、書画や青銅器の展示から中国文化の奥深さを実感しました。

芝山巖公園にある「六士先生之墓」は、明治28年(1895)の日清戦争後、日本統治が始まって間もなくして亡くなった六人の教師たちを祀ったものです。彼らは情熱を傾け教育の普及を目指しましたが、匪賊により殺害されたという悲劇の歴史を持ちます。墓前には今もお花が供えられることがあるそうですが、私たちも献花して六人の教師たちの冥福をお祈りしました。

台北市立志清国民小学

2日目は、台北市にある台北市立文山区志清国民小学校と台北市立瑠公国民中学校を訪ね、台湾の学校がどのような道德教育を行っているのか、両校の先生方から聞き取ったり、実際にその授業を見学したりしました。

私たち一行を出迎えてくれた児童たちは、英語で歓迎の挨拶を話し、先生と共に校内を案内してくれました。英語の挨拶や説明は、児童自身が考えたそうで、志清小の英語教育の成果に驚かされました。その後、主に品格教育(台湾では道德教育のこと)の概要について、校長先生や主任の先生から説明を受けました。授業も参観しましたが、日本の道德科の授業と共通点があり、たいへん興味深かったです。担任の先生方と交流する時間も設けて頂きましたので、ゼミ学生たちはとても喜び、先生方に多くの質問を投げかけていました。

台北市立瑠公国民中学

私たちが学校の駐車場に到着したら、校長先生をはじめ先生たちが出迎えてくださいました。それから、すぐに校内を案内して頂きましたが、品德教育の掲示をはじめ世界の国々の文化を知ることができるような施設があったのが印象的でした。

その後、瑠公中の品德教育に関する説明を聞き、「公民と社会」の授業を、参観しました。若い女性の先生でしたが、快活で笑顔を絶やさず、ゲームを取り入れて生徒の集中力を途切れさせないようユニークな授業をされていました。

瑠公中でも、担任の先生方との交流があり、日本と台湾の道德教育の特色や類似点、相違点について意見を交わし確認し合うことができました。



